

あなたのやる気スイッチを押します！

～市外へ行った「わきやあもん：若者」BIGになって帰ってけえ～

中嶋大樹¹・井島貴志²・島田可南子³・煤田浩喜⁴

¹菊池市役所総務部契約検査課

²菊池市教育委員会学校教育課

³菊池市役所建設部都市整備課

⁴菊池市役所経済部農政課

菊池市は近隣市町村と同様に生産年齢人口の減少が進んでいます。特に15歳から24歳までの若年層の減少が顕著であり、一度菊池市から出た若者が菊池に戻ってきていない現状があります。

そこで、菊池出身者が持っている郷土愛を呼び覚まし、郷土のためにゆくゆくは菊池に戻り活躍したいと思う若者を増やす取り組みを考えました。

一つ目は子どもたちが自由に夢を話し、大人が刺激を受ける場づくり。二つ目は地域の魅力を伝える冊子づくりによる郷土愛の醸成と情報発信ツールとしての活用。三つ目はUターン者向けウェブサイトの設置・運営による情報の一元化と魅力発信です。

これらの取り組みにより、自身のスイッチを作り出すとともに、それぞれが持つ「やる気スイッチ」を刺激し、菊池市に住む若者が増え、活気が生まれることで若者が集まるまちになると考えました。

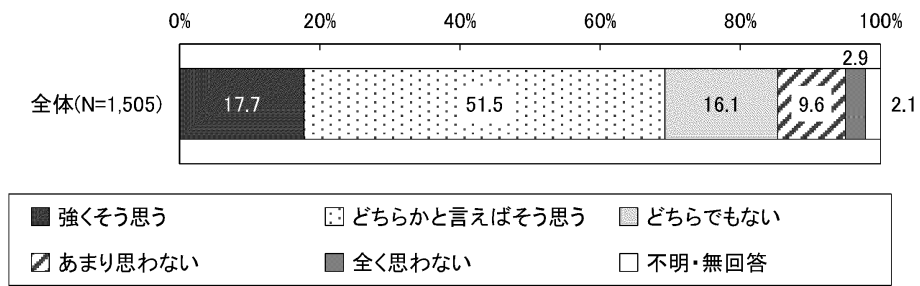
1. 政策提案の背景

第2次菊池市総合計画後期基本計画策定に関連して行った市民アンケートの結果の中で、「あなたは菊池に生まれて良かった、また暮らして良かったと思いますか」との問いに対し、約70%の方が「強くそう思う。どちらかと言えばそう思う」と答えています。また「あなたは今後も菊池市に住み続けたいと思いますか」との問いには、約80%の方が住み続けたいと回答されています。

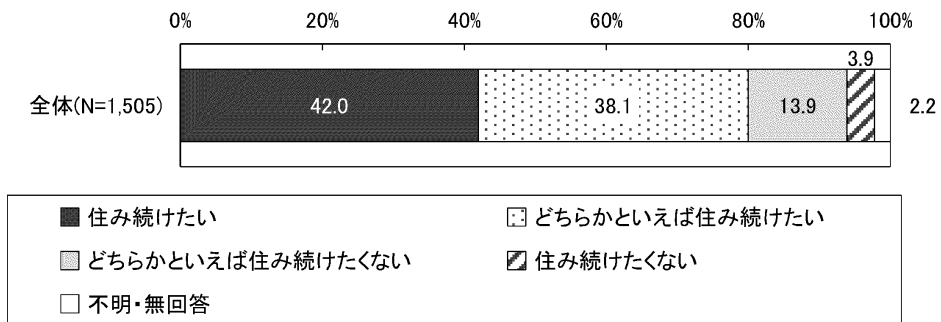
このことから、菊池市民は郷土愛が強いことが感じ取れます。しかし、本市の人口は平成12年の5万3千人から今日に至るまで減少が続いており、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計によると今後も減少が続いていくとされています。

また、本市における人口減少の要因の一つとして、本市からの流出者の多さがあります。平成22年から27年の人口移動の状況を見てみると転出者が超過しており、特に10代～30代の転入者と転出者の差が顕著であることが分かりました。

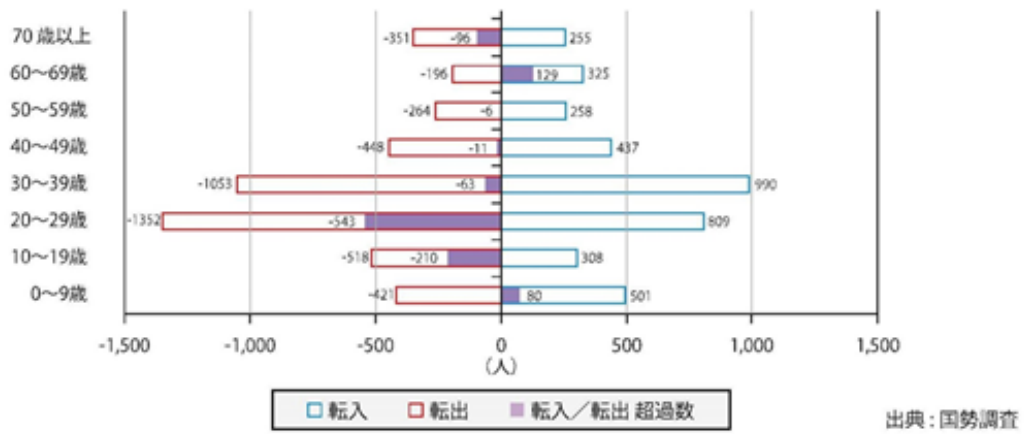
あなたは菊池に生まれてよかった、また暮らしてよかったと思いますか



あなたは今後も菊池市に住み続けたいと思いますか



表－1 市民アンケート結果（平成29年2月実施）



表－2 菊池市の人口移動の状況（平成22年～27年 年齢別）

2. 政策提言によって解決したい課題

この背景から、菊池市民は郷土愛は強いが、菊池市から離れていく人は多い、特に若い世代が顕著であることが分かりました。若い世代が減少することは、少子化も進み、活気や魅力が失われることにつながります。人口が減少すれば、まちは衰退していくことが明らかでありながら菊池市を離れていくということは「自分が菊池市を魅力あるまちにしたい」「自分が菊池市を活性化したい」という当事者意識が低いのではないかと考えました。

第2次菊池市総合計画後期基本計画策定に関連して行ったワークショップへの参加者を年齢別でみたところ、30代以下の参加者は全体の10%程度であったことから、若い世代が当事者意識を持って菊池市を盛り上げたいと思わせることが必要と考えます。

3. 課題解決策の具体的な手法及び重要性、有効性

ふるさとに対する郷土愛はあるにもかかわらず、ふるさとの将来については関心が低い若者が多く、ふるさとで仕事がしたい、活躍したい、恩返ししたいと思っている人が減少していると思います。私たちが提案する政策は、誰もが持っている郷土愛を幼少期から根付かせ、また、奥底に眠った郷土愛を芽生えさせるような解決策を提案します。

(1) 「ぼくの」「わたしの」菊池だいすき！夢プロジェクト《どりかむスイッチ》

将来を担う子どもたちの想いは大切だと考えます。そこで、子どもたちが「菊池をこうしたい」「菊池でできたらいいな」という夢を語る場を作ります。子どもたちの自由な発想で菊池の将来を想い、考えることが重要であり、そのことが郷土愛の醸成にもつながります。

さらに、子どもたちの「想い」を聞いた大人たちが刺激され、子どもの夢を実現したいと思う刺激スイッチにもつながると考えます。

(2) 地域の魅力を伝える冊子づくり《想ひ出（で）スイッチ》

地元の高校生や地域包括協定を締結している大学生が主体となり、全面的な地元の協力を得て「地域の魅力を伝える冊子」を作成することを提案します。

現在、小中学校では幅広い学習を行うため、地域学習が盛り込まれています。その学習の中で文化や歴史はもちろんのこと、地域の暮らしや年中行事、風習やしきたりなどを子どもたちが調査・体験することで郷土愛を醸成します。

また、その取り組んだことを冊子化し卒業アルバムのように子どもたちに渡すことで記録にも記憶にも残し、菊池を離れてからも常に故郷に思い出すことができることと合わせて、その学んだことを次の世代に伝えることができると考えます。

各地区独自の地域の魅力に触れ、学び、その体験を冊子にすることを一貫して行う

ことで、さまざまな年齢層の人々との連携が生まれ、郷土愛が深まることが期待できます。

(3) Uターン者向けウェブサイトの設置・運営《おもい出（だ）スイッチ》

情報過多の現代社会において、SNS等の情報は必要不可欠です。そこで「Uターン者向けウェブサイトの設置・運営」を行い、魅力あるきめ細かな情報を発信し、菊池市へ帰ってきたくなるような情報発信を提案します。

市HP移住定住サイトを活用し、雇用や住まいの情報のほかUターン者や地元企業のインタビューなど地元で就職、起業した人の「生の声」を発信することで、Uターン者が本当に必要としている情報を集約し正確に伝えることを目的とします。

さらに「菊（聴く）チューバー体験日記」と題して、地域おこし協力隊が「ユーチューバー」となり、菊池での生活体験や伝統行事、食レポ、菊池市に住めば「こんなことができた」や「こんなことができる」などの一分程度の実体験動画を作成・配信することで菊池の隠れた魅力などをユニークに伝え、菊池に住んでみたいと感じてもらえることを目的とします。

4. 効果

郷土を想う心は誰もが必ず持っているものです。今回の提案では、その心の部分「育てること」と「訴えること」が重要だと考えました。

提案した三つの「スイッチ」押すことで、それぞれが持っている郷土愛が目覚め、「菊池市に戻って仕事がしたい、活躍したい、恩返ししたい」と思い、多くの若者が菊池市に帰ってくるようになります。市外で様々なスキルや知識を身に付けた人は、仕事に活かすだけでなく、スポーツや地域活動などの活性化にも波及するなど相乗効果も期待できます。このことで魅力や活気が生まれ、地方創生の推進につながっていくものと考えます。